

本指導案は、「2017年度 横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会」において横浜市立中学校の教員と横浜美術館が協働で作成しました。

横浜美術館コレクションを活用した授業

社会科（歴史的分野）学習指導案

1. 題材作品 伝 ペーター・ベルンハルト・ヴィルヘルム・ハイネ 《ペルリ提督横浜上陸の図》
1854年以降（嘉永7年/安政元年以降） 油彩、カンヴァス 53.3×80.5cm
横浜美術館蔵 原範行氏・原會津子氏寄贈
2. 実施学年 第2学年
3. 単元名 欧米諸国における「近代化」と新しい価値観のもとでの国づくり

4. 単元について

17世紀から18世紀にかけてヨーロッパでは啓蒙思想が説かれ、その影響からイギリスやアメリカ、フランスでは革命により近代民主政治への動きが生まれた。18世紀の後半にワットが蒸気機関を改良し、やがて工場や炭鉱などで盛んに使われるなど技術革新が進むと、欧米諸国の産業は飛躍的に発達し、資本主義社会が成立した。産業革命の進展に伴い、欧米諸国は新たな工業製品の市場と工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めていく。中国（清）では1840年にイギリスとの間にアヘン戦争が起こり、南京条約を締結する。この条約は不平等条約であった。

アメリカは、アジア貿易や捕鯨船の中継地として日本に開国を求め、1853年にペリーが浦賀に来航し、翌年日米和親条約を結んだ。この過程で幕府が先例を破って大名に意見を求め、朝廷ともやり取りをしたことが、大名や朝廷の発言力が強まるきっかけとなった。1858年には米英露蘭仏と通商条約を結んだが、これは日本側に不利な不平等条約であった。貿易の開始により国内の経済は乱れ、幕府に対する不満が高まった。また、幕府が朝廷の許可を受けずに通商条約を結んだことから、尊王攘夷運動が盛んになった。しかし、直接欧米諸国と砲火を交えた薩摩藩や長州藩は攘夷が不可能であること、欧米諸国のような近代国家の設立が必要であることを悟り、薩長同盟を結び倒幕を目指した。これに対し、徳川慶喜は政権を朝廷に返上し、260年余り続いた江戸幕府は滅亡した。新しく成立した明治政府は、欧米諸国のような近代国家を目指し、富国強兵の国づくりのために様々な改革を進めていき、人々の生活も次第に欧米化していく。欧米で始まった市民革命、産業革命、そして帝国主義の波が日本にも到達し、それまでとは大きく異なる社会の変化が見られる時代である。

5. 単元の目標

- ・ 欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きを通して欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。
- ・ 開国により社会が混乱し幕府への不満が高まり、明治維新への動きを生み出したことを理解する。
- ・ 富国強兵、文明開化など新政府による改革の特色を考え、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことを理解する。

6. 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
欧米諸国のアジア進出や日本の開国とその影響について関心をもち、意欲的に追求してその特色をとらえようとしている。	欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出、日本の開国と新政府による改革について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出、日本の開国と新政府による改革について、様々な資料から情報を適切に読み取り、それを整理してまとめている。	欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと、開国による政治的・社会的な影響により明治維新への動きを生み出したことを理解し、その後の改革を含めて知識を身に付けている。

7. 単元指導計画

- 第1時 外国船の接近と幕府の衰退
- 第2時 市民革命
- 第3時 その後の欧米諸国
- 第4時 ヨーロッパのアジア進出
- 第5時 黒船来航の衝撃【本時】
- 第6時 尊王攘夷運動と幕府の滅亡
- 第7時 新政府の成立
- 第8時 富国強兵をめざして
- 第9時 人々から見た明治維新
- 第10時 欧米とアジアで異なる外交
- 第11時 変わる沖縄と北海道

8. 本時の目標

- ・アメリカの開国要求に対して幕府がどのような対応を取ったのかを探究し、当時の横浜港の様子と幕府の対応に対する自分なりの意見を文章で表現することができる。

9. 本時の指導過程と評価

過程	学習内容・学習活動	授業者の指導・支援	評価
導入 5分	1 ペリークイズ ・この人は誰でしょう ・どこの国の人でしょう ・彼が持ってきたお土産とは 2 本時目標の確認	・ペリーの肖像画を提示し歴史には主観が入っていることを確認する ・産業革命とのつながりを確認する ・美術の授業との連携を発表する	
黒船来航の現場で取材した記者として新聞記事を書こう			
展開 (1) 15分	3 ペリー来航の様子の確認 ●背景をノートに書く ●出来事としてペリー来航をノートに書く ●当時の人々の気持ちになって、最初の自分の立場を決める ・黒船を今まで通り立ち去らせるべし！ ・そろそろ「鎖国」をやめて受け入れよう！ ●当時の人々の様子を資料から読み取り、実際に何を思っていたのかを想像してWSに記入する ・警固にあたった幕府の人々 ・横浜に上陸したアメリカ側の人々 ・見物している日本の民衆	・前時の流れから薪水給与令を理解させる ・挙手させて、何人かに理由を発表させる ・美術の授業で生徒が疑問として記したことを中心に、資料の解説をする ・自由に想像できる雰囲気大切にす	
展開 (2) 15分	4 ペリー来航の理由を確認 ●資料からアメリカが日本に開国を求めた理由を読み取り、WSに記入する	・ペリー艦隊の航路を確認する ・「貿易をしたい」「捕鯨船の中継地になってほしい」を確認する	

	<p>5 日本の対応を確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ●出来事として2つの条約名をノートに書く ●資料から2つの条約の内容を確認し、WSにまとめを記入する ●結果をノートに書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部正弘の動きを確認する ・力士の力自慢など幕府の工夫の話をする ・条約の内容確認の際に、開港した場所の確認をする 	
まとめ 15分	<p>6 既習事項と学習内容3～5をもとに、幕府の対応についての意見文を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幕府の対応への賛成・反対の考え方の資料を読み、自分の立場を決める ●WSに黒船来航時の様子と自分の意見文を盛り込んだ新聞記事を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・様式を提示することで、どのような生徒でも新聞記事を書くことができるよう支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ○当時の横浜港の様子を、資料をもとに正確に読み取っている【資料活用】 ○幕府の対応に対する自分なりの意見を、文章で表現することができる <p>【思考・判断・表現】</p>

10. 板書計画

黒船来航の現場で取材した記者として新聞記事を書こう

背景 アヘン戦争、南京条約 → 1842 薪水給与令

出来事 1853 アメリカのペリーが来航し、日本に開国を求める

1854 日米和親条約

1858 日米修好通商条約 → 不平等条約

結果

- ・アメリカだけでなく、オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも不平等条約を結んだ
- ・大老 井伊直弼が朝廷の許可なく条約を結んだため、幕府と朝廷の溝が深まった

■指導案作成者からのメッセージ（実践を終えて）

社会科の教員なら一度は目にしたことがあるであろう《ペリリ提督横浜上陸の図》だが、今まで描かれているもの一つひとつに目を向ける機会はありませんでした。ペリーがどこに描かれているのかにさえ答えられなかった自分でも、横浜美術館の方が細かく丁寧に教えてくださったのは非常に有り難かったです。

限られた時間の中で新聞記事を書く活動であったが、特に前半部分の資料活用による描写の部分をしっかりと書くことができた生徒が多かった。美術科の授業の中でじっくりと絵を鑑賞し、多くの疑問や予想を持つことができたからこそであり、社会科の授業だけでは成しえなかつただろう。社会科の授業内では生徒の資料活用の力を高めたくとも、じっくりとその資料に向き合う時間が取れないのも現実である。今まで見取ることができなかった生徒の学力を、美術科との連携授業によって見る事ができた。教員にとっても生徒にとっても、教科横断的な学びの有益さを実感することができた実践研究となった。さらに先のことを考えるならば、美術科で絵を鑑賞し、社会科で歴史的背景を学んだ後、国語科で意見文を書くことができれば、より深いところまで生徒の思考を進めることができるだろう。

■参考文献

『わたしたちの横浜 横浜市立小学校用副読本』横浜市教育委員会

(指導案作成：横浜市立中学校教諭 神村絵織／濱崎瑞紀)